

こども理解への5か条

*子どもの成長を促すために、「大人がこどもの発達を知ること・理解すること」が最初の1歩です

1か条 生活の様子から児の能力を見極める

こどもの普段の様子を観察し、どんな特徴があるのか、現時点で何をどこまでならできているのかの情報を集めてみましょう。観察からこどもの情報を得ると、それを基にこどもの特徴・能力に合わせた支援を保育士、教諭、保護者が組み立てることができます。

また好ましくない行動が起こった際には、周囲の状況も併せて観察してみましょう。「好ましくない行動(問題行動)を誘発する周囲の状況がないか」、「事前に予防することができたのではないか」等を振り返り、対応に活かしてみましよう。

2か条 児への要求水準(“できる”段階)を合わせる

観察したこどもの能力や、そこから得られた情報を基にこどもへの要求(取り組んでほしい内容)を合わせます。こどもは「自分ができること、分かること」に要求を合わせてもらおうと、達成する経験を積むことができます。また、達成する体験を積んでいくことで次のステップへのチャレンジにつながります。

3か条 伝わる伝え方の工夫(簡潔に、分かりやすく、具体的に、落ち着いたトーンで)

こどもに何かを伝える時には、より伝わりやすい「伝え方の変換」が必要です。こどもの理解力(要求水準を合わせる)を上回る伝え方では伝わりません。理解力に合わせた「伝え方の変換」を試し、より理解できる力を伸ばしていきましょう。こどもにとっても大人からの指示を「分かった!できた!」体験に繋がりこどもの能力UPの支援になります。

例1) 高いところに登ってしまった時に「なんで登るの?落ちちゃうよ!」を変換させて

→「手をつかみます。抱っこして降りるよ。」

例2) お味噌汁を運ばせる場面で「そんな持ち方ではこぼす!こぼす!」を変換させて

→「そっと、そっと。」

例3) おもちゃを片づける時に「きちんとしまって。片づけて」を変換させて

→「〇〇はこの箱にしまえます。」、「こうやってしまおうね。」と見本を見せる。

4か条 コミュニケーションの広げ方

集団生活でのこども同士の学び、遊びはとても大切ですが、こどもは信頼できる大人、安心できる環境があってはじめて周囲のこども達へ興味を向けることができます。まずは人の中にいることが楽しい、安心する気持ちを確保し、こどもに合ったコミュニケーションを支援しましょう。

遊びの広げ方) こどものペースを尊重する。こどもが興味をもつもの、具体的で分かりやすいグッズ、遊具等を媒介にする。大人が仲介に入り、こどもの気持ちを代弁する。具体的なやりとりの手伝いをする等。

表現の広げ方) こどもが要求したい場面、拒否をしたい場面、SOSが必要な場面等は表現力を高めるチャンスです。「〇〇を使いたい」、「●●を減らしてほしい」、「助けてほしい」等の表現法をこどもに合わせた方法で支援し、伝わった成功体験を増やしていきましょう。

5か条 自己肯定感を保つ関わり方

生活の中でこどもが自信を失いがちなことはありませんか?家庭、保育者、教員は、小さなことでもこどもが「自分はできる」という実感をもてるような活動の仕方を工夫したいものです。こどもは自分に自信を持てると、新しい活動に積極的にになり、それが社会生活の広がりにもつながります。

